

idea

ニュースレター「アイデア」

2022.3

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 好観堂骨董店 店主 木村正明さん
- 3 | 団体紹介 | ひがしやま山野草の会
- 5 | 地域紹介 | 外山振興会(一関)
- 7 | 企業紹介 | 株式会社白石薬店
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴②
- 9 | センターの自由研究 | 伝説調査ファイルNo.7「金山一揆(後編)」

今月の表紙

山の斜面に現れた怪しいシャッター。昭和60年頃まで金の採掘が行われていたという藤沢町「新地金山」の鉱道入口です。その起源は定かではなく、採掘が中断された時代がある可能性も。戦後、鉱山会社等も出入りし、近代鉱山として稼働した時期もありますが、シャッターがついたのは廃鉱後だとか(観光開発目的だったが頓挫)。今月の「自由研究」では当地域の金山について整理してみました。

idea

発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
 センサーやチラシ等 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: center-i@tempoon.ne.jp

お知らせ

情報

チャイとスパイスカレーの店「ゴールドチャイ」

一関市滝沢に移住した夫婦が、週末限定で「チャイとスパイスカレーの店『ゴールドチャイ』」の営業を行っています。こだわりのスパイスを使用したカレーや月替わりメニューなどをご用意(メニュー内容は変更になる場合あり)。毎週土・日曜日みの営業で、日曜日は予約制です。詳しくは下記までお問合せください。

営業日・時間: 土曜日 11時～16時
 日曜日 11時～19時
 ※日曜日は3日前までの予約制
場所: 一関市滝沢寺田下85-1 (陶工房「陣の里」内)
問合せ & 予約: 080-4439-8791 (五十嵐)

展示会

「イチコレ」グランプリ受賞記念「ペコラ&ふさすぐりの会」展

2021年11月に開催した「イチコレ第2回コンテスト」でグランプリを受賞した柳田さくらさんの着用した衣装・アクセサリを手がけた室根地域の「一般社団法人ほまれの会『ラポーレペコラ』」と「ふさすぐりの会」の作品展(販売品もあり)が、審査員を務めた二宮柊子さんのギャラリーで開催されます。詳しくは下記までお問合せください。

日時: 2022年3月20日(日)・21日(祝) 11時～16時
場所: Gallery 柊(一関市山目大槻59) (柊染色工房)
問合せ: 019-622-3693 0191-25-5268 (Gallery 柊 ※当日のみ)

イベント

歩いてもらおう! スマイルポイント「アークウォーキング」

レンタル歩数計をつけて場内を自由に散策し、歩数を同牧場オリジナルの「スマイル通帳」に記帳していくと、歩数(マイル)に応じて素敵な特典が! 予約不要で当日参加OK(5名以上の場合は要予約)。今なら新規参加キャンペーンで牧場産ドライハーブ使用の「ハーブの入浴剤」をプレゼント(～2022年3月31日まで)。

開催日: 通年(開園日)
 ※冬期間(～3月16日)は月曜定休
受付時間: 10時～15時
場所: 館ヶ森アーク牧場
 ※「ファームマーケット」にて受付
参加料: 無料(初回のみスマイル通帳200円) ※冬期間は入園料無料
問合せ: 0191-63-5100(館ヶ森アーク牧場)

情報

おやこ広場 現在の利用方法について

NPO法人いちのせき子育てネットが運営し、概ね3歳までの子どもと保護者の交流の場となっている「おやこ広場」では、現在、新型コロナウイルス感染拡大を予防するため、利用組数を制限し、午前・午後の部とも7組まで、電話での完全予約制(利用当日の予約可)となっています。お問合せや予約は下記まで。

利用時間: 午前の部 10時～12時
 午後の部 13時～16時
 ※2022年4月より利用時間変更あり
場所: なのはなプラザ1階 (一関市大町4-29)
問合せ & 予約: 0191-26-6401 (NPO法人いちのせき子育てネット)

募集

日本空手松濤連盟 大瀧塾 会員募集

小学1年生から中学3年生までのスポーツ少年団と、幼児・一般で活動している「大瀧塾」では、随時会員募集中! 体験・見学も受け入れています。練習を通して体と心を鍛え、世代を超えた交流ができることも同道場の魅力です。興味のある方は下記までお問合せください。※QRコードを読み込むと同道場のFacebookページへアクセスできます。

練習日時: 毎週火・金曜日 18時～
練習会場: 大東町内の公共施設
 ※日によって異なるため要事前確認
問合せ: 080-5226-9545 (塾長・山口)



講座

まちづくり入門講座

「まちづくり」に興味・関心のある市民や、実際に関わりのある地域協働体の職員等を対象に、「地域づくり」「地域おこし」の違いを整理し、それぞれにおける「視点」を考える講座を開催します。電話かホームページ内申込フォームからお申し込みください。

日時: 2022年3月26日(土) 10時～15時(昼休憩あり)
場所: なのはなプラザ4階共同会議室
講師: 小野寺浩樹 (いちのせき市民活動センター長)
参加料: 無料
定員: 15名(3月18日までに申込・先着順)
問合せ: 0191-26-6400 (いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「合→升→斗……の次は?」



本誌「企業紹介」で紹介した「株・白石薬店」の店舗に並ぶ「度量衡器(とりょうこうき)」。穀物を量る際に使用するため、昔は農家の方に需要があったとか。現在はほぼ展示物となっています。が、販売も可能。升(しほ)か「とがき棒」もあります。



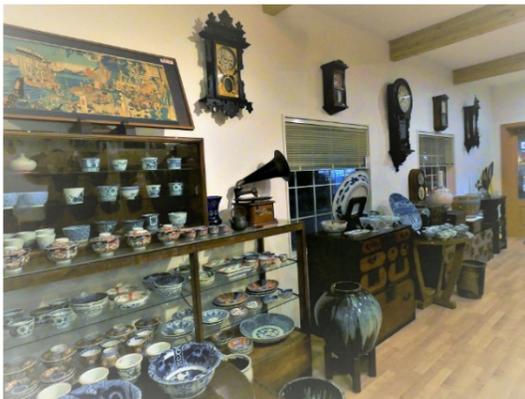
旧町村別の人口動態等を共有します。

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	55342	-40	24431	-2
花泉	12392	-18	4704	-10
川崎	3361	-11	1284	0
千厩	10146	-10	4097	-2
大東	12377	-27	4926	-2
東山	6104	-13	2288	-3
室根	4562	-13	1778	-3
藤沢	7346	-14	2793	-3
一関市全体	111630	-146	46301	-25
人口	111630	-146	46301	-25
世帯数	46301	-25	46301	-25
出生数	37	+5	37	+5

160 / 111,630

木村 正明

一関市山目字十二神に店舗を構える「好観堂骨董店」店主。昭和59年から毎月第4日曜日に仙台市青葉区の東照宮境内で「仙台古民具骨董青空市」を主催するほか、毎月17日は「業界専用骨董オークション交換会」として古物商許可を持っている人向けの市場を主催。趣味はスノーボード、テニス、空手など体を動かすこと。昭和28年、気仙沼市生まれ。



店内の様子

第93回 (有)好観堂骨董店 店主 木村正明さん × いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

「先祖が遺した物」を正しく「処分」する ～骨董屋は‘物’をつなぐ‘仲人’【前編】～

「終活」という言葉・考え方が普及した昨今。介護や葬儀、相続等に関する意思を書き記す作業より先に、まずは「生前整理(非断捨離)」に取り組むという人も多く、団塊の世代が75歳前後に差し掛かる今、「生前整理」を始める人はさらに増加することが予想されます。はたして両親や祖父母など、先祖から引き継いだ物品は、どのように取り扱うことが適当なのでしょう(2回シリーズの前編)。

小野寺 「終活」ブームや、家の建て替えなどで、価値ある古い物が捨てられてしまいうことが増えているのではないかと危惧しています。

木村 今の70代以上の人は「昔の人が残した物は残さなきゃいけない」と思っていることが多いですが、そうした世代からの代替わりの時に捨てられることは多いですね。

小野寺 特に大正・昭和の物などは、大した価値がないと思っ

木村 そういう傾向はありますね。「お金になる・ならない」の観点でいけば、世の中は今、昭和のいわゆるレトロものをもてはやしているのが、大正・昭和の物も需要があります。

小野寺 昭和の物が骨董の世界でも需要があるんですか？

木村 骨董そのものに明確な定

大事にしていた物なんです。いくらするでしよう？」と聞いたりしますよね。見るたびに「え？価値を値段で聞くなよ」と思ってしまう。どれくらいの価値があるか知りたいという気持ちはわかりますが、仮にそれが10円と言われたら捨てるんですか？という話ですよ。

小野寺 ファミリーヒストリーですから、僕はさっきの曾祖父の懐中時計にしても、金銭的な価値はそれほどないと分かってても捨てはしないうですね。むしろより大事にしたくなりました。

木村 そう、金銭的な価値に関係なく「大事にしたい」という気持ちがある芽生えたものはそのままっておけばいいんです。逆に現代の人が「これは残しておきたい」という気持ちが芽生えない物は、しまい込み続けるのではなく、時代にあった処分の仕方を考えていいんです。

小野寺 「処分」という行為に抵抗を感じるんですよね。

木村 「先祖の物を勝手に処分したら罰が当たる」と思いがち

義はなく、一般的には100年以上前の希少価値のある古道具などを言うので、大正・昭和期の物は骨董と言うのは難しく、扱わない骨董屋もあります。私のように「生活骨董」をコンセプトにしている場合、レトロものも取り扱います。商売でもあるので、骨董と言いつつ、「今の時代」で物事を考えなければいけないんです。

小野寺 例えば僕の実家に昭和13年に隣組3軒で共同購入した会席膳があるのですが、そういうものはどうでしょう？

木村 会席膳は「実用品」であり、骨董的価値はないです。今の私たちが使っている食器と一緒にです。ただ、素材が木で、漆が塗られているので「高価なものだろう」というイメージを持つてしまいがち。会席膳の買取に関する問い合わせはたくさん来ますが、今は全く需要のない物ですから、基本的には買取はしません。^{※1} 需要がなければ商

ですが、私はいつも「そんな先祖はいません」と反論するんです。だって自分の先祖ですから。「俺たちが捨てられなかったもので困らせて悪かったな」と思っているはず(笑)。ただもちろんな、「処分するな」という口伝があるものを内緒で処分するようなことはダメですよ。

小野寺 次の世代のために「本当に残したい物」と「捨てられずに残っているだけの物」を整理する、という感覚でしょうか。

木村 そうですね。その時に「捨てる」のではなく、「欲しい人の手に渡す」という選択肢を持つてくれたら嬉しいんです。私たち骨董屋は、古い物をそのまま可愛がってくれる、誰かから譲り受けてでも自分が守ってきたいという人と物をつなぐ「仲人役」^{※2}です。「お金になるかどうか」よりも「欲しい人がいるかどうか」で考えてもらえたら、需要がある物が「消費」されずに済むのかな、と。

小野寺 「捨てる」か「大事にしてくれる人を探す」か。お金はその次なんじゃないかな(笑)

品になりませんから。

小野寺 僕の母親も「宝物が出てきた」と喜んでいましたが、そうではないんですね(笑)

木村 蔵や納屋にしまわれている物を「先祖が大事にとつておいた物」と解釈している方が多いですが、私たちの経験からすると、当時は「捨てられなかった」だけなんです。今のよう

小野寺 なるほど(笑)それを今の人たちは「先祖が大事にしていた」と勘違いしている、と！

木村 当時の人たちが本当に大事にしていたものは家紋が入ったものなどです。あとは「これは〇〇だから大事にしようね」という口伝があるもの。

小野寺 ではこの懐中時計はどうですか？父が他界した時に仏壇を整理していたらできて、僕の曾祖父のものらしいです。

木村 SEIKOの懐中時計で

すね。おそらく昭和20〜30年のもので、これ自体に希少価値はないですが、例えば後ろに鉄道関係の文字が彫られていたりすると、鉄道マニア向けの付加価値がつくわけです。ちなみに懐中時計はそれなりに高価なものでしたから、一般の農民などが持ち歩くものではなかったはず。曾祖父さんはハイカラだったのかもしれないですね。

小野寺 「お金になる・ならない」の観点でいけば、これも家宝とは言えないということですね(笑)でも僕としては「農民で持っている人は少ない」そして曾祖父が「ハイカラな人だったのかも」ということが知れただけで嬉しいですね。

木村 もしかしたら自分で購入したのではなく、もらったのかもしれないですね。出兵の関係などで、というのも考えられます。

小野寺 出兵時の寄せ書きのよなものも出てきたのであり得ますね！

木村 テレビ番組などではよく、こうした先祖の遺品を「祖父が

※2 「〇〇時代の〇〇の作品を探して欲しい」など、コレクターの依頼に応じて当該品を探し、持ち主とマッチングする役割を担うことも多い。そのため、かつては農家の家などを周り、当該品が蔵などに収蔵されていないか、拝見させていただくこともあったとか。

※1 「蒔絵(漆を塗った上に金属粉や色粉を「蒔く」ことで絵や文様を表す加飾技法)」が施されたものなどは買取対象になる場合もあり。

(有)好観堂骨董店 【次号へ続く】
住所 一関市山目字十二神123-12
電話 0191-233-1888

豊かな農村環境と民俗文化を後世へ

住民全員で継承する獅子舞

「住民が集える場所をつくる」と、平成9年4月、認可地縁団体として発足した外山振興会。田んぼだった場所に集会所を建設するにあたり、法人格が必要となったことによる組織化でした。発足を機に、集落(山目12区)における自治活動は同会が担うように。完成した集会所「外山ふれあいセンター」のほか、第2集会所として集落内の赤荻山神社の社務所も同会が管理し、住民の拠り所を提供しています。

山目地域で最も人口規模が少ない同集落は、赤荻地区の北東に位置し、平泉町と隣接。里山の豊かな田園風景が広がり、史跡なども残るこの環境に惹かれ、移住してきた方(2世帯)もいるのだとか。そんな同集落では、住民全員で「獅子舞」の継承を行ってきまし。昭和25年頃から行われ始めた同集落の獅子舞は、神社の祭事はもちろん、集落を巡回し、新築・

そでやま 外山振興会

一関

改築や事業の完成祝いなど、個人宅の祭事に伺って奉納することも。獅子舞は班ごとに持ち回るため、住民の多くが獅子舞の舞手を経験する仕組みになっています。令和2年、5年以上申請し続けた助成事業が念願の採択となり、獅子舞の小道具や衣装、音響機器等を整備すると、獅子舞を集落の「文化」として伝承し続けるため、全世帯加入の「外山振興会獅子舞保存会」を発足。新たな道具を手に、改めて集落の歴史文化を繋ぎ始めました。

下準備の『検分』で『納得』しての作業

グラウンドゴルフ大会や敬老会、新年会等といった自主事業のほか、隣接する区と合同で行う山目市民センター笹谷分館周辺の草刈りや、赤荻地区防犯交通安全協議会の活動など、外部事業にも積極的に参加し、地域間交流にも力を入れていく同会。自主事業の中で特徴的なのが



住民の交流拠点

住民からの積み立てと市の補助金等を活用し、集会所の建て替え工事を行いました。写真は落成式の様子(平成30年)。

新調した獅子頭

コロナ禍で獅子舞を披露する機会が減少。コロナ禍が終息したらたくさんの人にお披露目したいと期待を寄せます。



会場は「かんぼの宿」

新年会には毎年40人ほどが参加(コロナ禍で2年連続中止)。女性たちの参加率が良いことが自慢です(写真は平成28年)。



多くの草刈り機械

グラウンドゴルフや敬老会等で使用する山目市民センター笹谷分館。草刈り作業は、隣の区と協力して実施しています。



外山振興会(山目)

山目地域は「山目地区」「赤荻地区」に分けられ、同会は赤荻地区(行政区は「山目12区」)。41戸約130人が暮らす中山間地域。会長、副会長、会計、監事、土木、水利、体育、防犯交通安全、婦人消防協力隊で構成される(5班体制)。



左の写真：しめ縄づくりの集合写真(平成27年12月)

「多面的機能支払交付金」を活用して行う「春の納得」「秋の納得」です。田植え前・稲刈り後の年2回行う田んぼや溜池周辺の環境整備活動ですが、「事前の下準備」を強みにしています。実施日の約1か月前、まずは同会役員が環境整備を行う周辺を「検分」。どこに何人配置するかを検討します。その検分案を作業当日までに住民に示し、住民が「納得」した状態を作り出すことで、各戸から1人は協力を得られると言います。

「検分」というひと手間を加えることで、高い参加率を得ている事業ではありませんが、会長の阿部良弘さんは、「春は団子を食べながら花見、秋は収穫した野菜や米を使った芋煮会を環境整備後に行い、住民の交流の場としてきた事業だが、交付金を活用している面もあるため、事務的負担を感じるようになってきた。簡単な事務処理であれば『次の人に』とお願いできるが、そこがなかなか難しい」と、人材確保の面で継続の難しさも滲ませます。

農村集落ならではの課題と向き合って

集落内の赤荻山神社に奉納するしめ縄づくりにも取り組む同会。元は老人

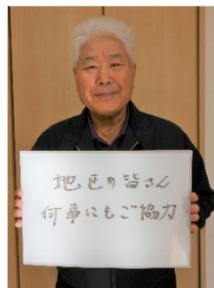
クラブが担っていましたが、東日本大震災を機に老人クラブの活動が停止。翌年から2年間、新しいしめ縄を奉納することができませんでした。これを受け、住民の間で「このままではダメだ」という声！当時老人クラブに所属していた方々は高齢でしめ縄づくりの指導が難しくなっていたため、集落外(赤荻地区内)の方に教えてもらい、平成25年12月にしめ縄づくりを再開、平成26年の奉納に間に合わせました。現在では、事前講習会を経てから本番という流れで行っており、60〜70代を中心に毎年約20人が参加。一度途絶えた風習が復活を遂げたのです。

一方で、高齢化や跡取りがいないなどの理由で「農家をやめる」という人が少しずつ出てきている現状も。そのため、比較的若い人が参加する新年会に「中山間地域等直接支払制度」を活用した研修会を合わせて開催。JA職員などを講師に、農業に関する講習を行います。阿部さんは「昔は朝に畑仕事をしてから仕事に向かったが、今の若い人たちは畑仕事をせずに仕事に向かう。不規則な労働環境なども原因だとは思うが、農業への関心は薄い」と現状を見つめた上で、「『農業Ⅱ大変・面倒くさい』というイメージだが、その分、収穫したときの喜びも大きい。

「ご先祖様が残してくれた田畑をなんとか継承していきたい」と語ります。農村集落ゆえの「苦悩」はありますが、農村集落ならではの「喜び」「豊かさ」も実感できる同集落。その「豊かさ」を後世につないでいきます。

Q.集落の自慢は何ですか？

会長



あべ よしひろ
阿部良弘さん

5期9年目。「山目地区まちづくり協議会」保健福祉部会の部長も務める阿部さん。これからも地域の頼れる存在として頑張ります。

A. 地区の皆さん何事にもご協力

副会長



さとう こうじ
佐藤公志さん

農家組合長が副会長を兼務することになった。今年度から副会長を務める佐藤さんは、中山間の役を17年間担ってきました。

A. 長年培った協同の心

- Photo

gallery -

千厩 株式会社白石薬店

明治37年「白石里仁堂(しらいしりじんどう)」として、現代表取締役社長の祖父(日露戦争で野戦病院に勤務)が現在の岩手銀行千厩支店の場所に薬店を開業。昭和2年に現在の位置に移転し、昭和26年に株式会社白石薬店(調剤薬局・衛生用品・化粧品販売等)として法人化。社長職は祖父、祖母、父、母とバトンが回され、現在で5代目。

個人向けの調剤・医薬品等の販売のほか、薬の卸業、化粧品の取り扱いをメインにしていた時代もあるなど、時代に応じた店舗経営を行っており、チェーン店のドラッグストアが普及した現在は、「かかりつけ薬局」として、地域住民の顔を知っているからこそその店舗サービスを目指しています。

地域の健康を支え118年。老舗薬局のさらなる挑戦！

薬の正しい知識を地域住民へ

通称「白石薬局」として親しまれている株式会社白石薬店は、地域住民の衛生環境指導や健康管理に寄与して間もなく120年を迎えます。現社長の白石恵一さんは、昭和51年から旧東磐井地域内の幼稚園・小学校・高等学校の学校薬剤師(市委嘱・県委嘱)としても活躍。学校施設の環境衛生検査(空気検査・プールの水質検査・学校衛生指導等)のほか、健康や薬物乱用防止講座等の講師も長年務めており、同様に、地域のサロンや自治会からの依頼にも対応しています。同店では、医師の処方箋による薬の調剤のほか、風邪薬や頭痛薬、胃腸薬等の一般医薬品、うがい薬や消毒液、栄養剤・腸整剤等、作用の強い第1類医薬品から第3類医薬品の取り扱いも行っており、平成22年までは薬の卸業も行っていました。「卸業では、非常に作用の強い薬(麻薬等強い依存性を持つもの)も取り扱っていたため、『薬物依存や乱用』という、薬が持つ二面性について興味を持つきっかけになりました。そこから学んだ内容を、地域や子どもたちに広く啓蒙していくことに特

に力を入れていきます」と白石さん。

国の政策で医薬分業が進み、当市域でも大手チェーン店の調剤薬局が複数展開していますが、地域に根差した老舗である同店では「複数通院している方の処方時は、処方箋とお薬手帳を確認し、時には医師に『疑義照会』をかけることもある」など、高齢者はもちろん、顧客一人ひとりに寄り添い、家庭環境も把握しながら、服薬に関する指導を行います。

趣味が繋いだ交流スペース

昭和後期には取り扱いのメインと言っても過言ではなかった大手メーカー化粧品。ドラッグストアチェーン店やコンビニ等の普及により、安価に化粧品が入手できるようになってからは、店舗内の大手メーカーの名が刻まれた棚は「デッドスペース」となり、白石さんの悩みの種に。そんな折、同店の立地する本町商

店街で、東北学院大学工学部建築学科の生徒による「商店街活性化のための調査」が始まりました(せんまや本町通り振興会が受入れ)。同店でも「自分の趣味を活かしつつ、地域の方が気軽に立ち寄れる場所」として、デッドスペース部分を大学生とともにリノベーションすることに。そして令和3年10月、白石さんが少年時代から収集してきた映画俳優や野生動物の切手や本などが並べられ、同店を訪れた人が自由にそれらを手に取り見ることができるよう「ス・里仁堂ギャラリー」が店内に誕生しました。

「本町商店街は夜市やアートイベントが盛んに行われています。現在はコロナ禍で休止していますが、また賑わいあるイベントが再開される頃には、多くの人が交流できるスペースとしてこの店舗の一部も大いに活用してもらいたいものです」と、同店の担う新たな役割を白石さんも楽しみにしています。



- 1 代表取締役社長の白石恵一さん
- 2 生まれ変わった店舗の一部「里仁堂ギャラリー」
- 3 店舗外観。薬の相談だけでなく、「話語り」だけでもお気軽に！

DATA
〒029-0803
一関市千厩町千厩字町37
TEL 0191-52-3138

今月のテーマ

地域運営の 落とし穴⑳



『「地域文化」の継承』は、誰が、どうやって？

本誌の「自由研究」では、地域の歴史や文化ネタを取り上げており、地域のみなさんに調査協力をいただきながら誌面を作成しています。我々は専門家ではないので、市民目線で気になったことを調査しているだけなのですが、時々、良い意味で専門的な指摘をいただくこともあり、大変ありがたいことだと受け止めています。

いま、こうして「指摘してくれる」ということは、「地域の歴史や文化を語れる人がいる」ということですが、5年後、10年後……と、時間の経過とともに、そうした人たち(多くは超先輩方なので)はいなくなってしまいます。つまりは「地域の歴史を語る、語れる人がいなくなる」ということであり、そうした状況が訪れることを、我々は危惧しなければいけません。各地域に存在した「史談会」や「郷土史研究会」なども、高齢化や会員減少により解散している今、今後、地域の歴史をどのように語り継いでいくのか?ということが気がかりです。

幸いにして、上述の史談会や郷土史研究会などが主要な地域の歴史は書籍等にまとめています。しかし、「まとめているから大丈夫!」ということではなく、「本にまとまっていることが全て」ではありません。通説を覆すような史料が思わぬタイミングで見つかることもあります。また、歴史は偏った視点で記録されることがあるため、「別の視点から考えるとどうなの?」というモノも多々あります。本誌「自由研究」はそうした疑問を素材にすることも多いので、訊ねる人がいなくなると困るな……とったり。

「郷土史」だけでなく「文化」も同様です。「そんな古いことにこだわって……」という声や、「多様化・多様性」という考え方に支配され、地域性が失われています。はあ、困ったことです。

その反面、近年は「郷土芸能」への関心の高まりがあり、若い世代の参加も増え、継承としては順調のように見えます。そうした流れを見ていると「郷土芸能の魅力ってなんだろう?」と思わず考えてしまいます。「魅力は何か」と尋ねたら、きっと「舞い終えたときの達成感」「みんなの喜ぶ姿が忘れられない」「装束や道具、受け継がれてきた歴史を感じるから」などが挙げられるのではないかと思います。

ちなみに、「郷土芸能」は本来、「無病息災」「五穀豊穡」「家内安全」「疫病退散」など、その地域で「安全に安心して暮らせるように」願い、祈ることのあらわれです。それは「地域づくりの原点」と言っても過言ではないでしょう。

話を戻しますと、残念ながらすべての郷土芸能の継承が順調かというところではありません。やはり後継者がなく「俺たちの代で終わりだ」というものもあります。それは団体活動だけではなく、イエ(家)の継承も。

「失いたくない」という気持ちがあっても、現実的には継承できない可能性を消しきれないので、今後、私たちは前述の諸先輩方がそうしてきたように「記録する」という行為を優先的に行うべきでしょう。将来、どのような形で扱われるかは分かりませんが、記録しておかないと「消滅」を待つだけです。消滅してしまうと地域の歴史を失います。

地域の歴史や文化を記録(継承)する際に大事にしなければいけないのは、「**マインド**」の部分だと思います。自分たちが担ってきたという思い出(苦労話も面白いんですけど)だけでなく、「**そもそもの成り立ち**」や「**本来の目的**」など、核となることを「**言語化**」することに注力して欲しいところです。

ただし、注意していただきたいのは、歴史や文化の重要性を訴え、保存に取り組む動きを「行政」に頼りすぎること。郷土芸能などの地域文化は神事と関連することが多く、政教分離の観点で行政では取り扱いが難しい分野です(当センターでも痛い経験あり)。裏技のように、最近では、集落や氏子組織等で取り組んでいた郷土芸能も「〇〇保存会」という名称で団体化しています。「風土風習」ではなく「**文化財保護**」という文脈の視点・活動ですね。

とは言え、「**マインド**」を大事にしながら地域の特性を残す、記録するためには、**行政ではなく、「地域」や「市民活動」の領域で取り組むのがベスト**だと思っています。



何を隠そう、「郷土芸能に若い世代が参加するようになった」の事例張本人は筆者(センター長小野寺(写真中央))。

金山一揆 & 金山ゆかり スポット

当地域には、金山が稼働していない現在でも、その当時の面影を見ることができるスポットが複数あります。

金山一揆に加わった堀子たちはこうした金山で金の採掘を行っていたはず……！直接的なゆかりスポットとともにご紹介します。



▲「金山一揆集結の地」
千厩町千厩字前田にある「松澤神社」は、金山一揆の当時は白山大権現を勧請した「白山永正寺観音院(白山堂)」でした。この白山堂に堀子たちが集結し、一揆に発展したことで、建物及び什物は焼失しました。現在の松澤神社は明治時代、神仏分離令によってできたものです。



▲「六道塚(六道長根)」
金山一揆では、首謀者は撫で切りに、その他の中心的堀子たち38人が磔(はりつけ)となりました。その屍を埋めた4つの塚が、「六道塚(現在の千厩町千厩字中上)」として『千厩村風土記御用書風土記(1775)』に塚の大きさとともに記録されています。



▲「山砂金の露天掘跡」
千厩町警清水と川崎町薄衣にあった「三島金山沢(みしまかなやまさわ)金山」。三島山麓を露天掘りし、三島峠からの用水路の水で土を洗い流して砂金を採っており、その採掘跡が確認できます。露天掘りの跡が凹地となるため、「金ぼこ」と呼ばれていたとか。標柱には「石名田付近より下川原、金山沢から三島山に及んでおり、凹地として今に残り、『金ぼこ』と呼ばれている。露天掘りの採掘遺構である」と記載されています。
※矢印の付近、山肌が不自然に凹んでいる部分が露天掘りの跡。

鉱山跡は私有地も多いため、立ち入りの際はご注意ください。また、「鉱業法」により、鉱石の採掘は各種許可が必要ですので、無許可での採掘はできません。



▲「矢ノ森金山」
東山地方の堀子たちが集結した金山一揆。現在の東山町田河津にも多数の金山があり、その一つ「矢ノ森金山」は、坑道跡が観光資源として整備されており、中に入ることが可能。坑道の中では手掘りの跡も確認できます。

▲「三枚山鉱山」
千厩町奥玉と室根町上折壁地区と区界上にあり、坑道口は奥玉地区に3か所、上折壁地区に2か所が記されています。昭和期には「日鉱業三枚山鉱山(国策)」として近代鉱山も運営され、昭和13~19年の金産出量は87kg超。鉱山事務所跡、運鉱場跡、山吹鉱跡など、当時の様子が想像できます。

▲「峠金山」
大東町猿沢にある峠金山。周辺には金の採掘跡が多数存在しています。危険性があり、ふさがれた坑道跡もみられます。現在のところ、坑道入口を見ることができるところがいくつかあります。左の写真は、「愛宕権現水」の水汲み場から見える場所にある坑道跡。峠金山も近代鉱山として関東の企業や地元企業が採掘を行っていたと考えられます。

Q. 鉱石から金を取り出すには??

鉱石から金を採取するには9頁でも触れたように「鉱石を砕く」「砕いた鉱石を石臼ですりつぶす(粉成)」「すりつぶした鉱石を比重選鉱する」という大きく3つの工程が必要になります。

「粉成」に使用する石臼は消耗品であり、金山周辺でその都度造り、使用していたとみられています。金山があったとされる場所などからは、思いがけず出てくることもあるそうです。

※写真はどちらも藤沢・新地金山跡で撮影(くぼみ石と下臼)。



東山地方 金山・鉱山マップ

東山地方に多数あったとされる金山・鉱山。その中から文献等でピックアップしてきた約40か所を地質と合わせてマップングした当センターオリジナルの金山・鉱山マップをホームページに掲載しています。金の鉱脈がどのように分布しているのか、大まかな推測をしてみることができる……かも!?右のQRコードもしくは「いちのせき市民活動センター」で検索してください。



「粉成」した鉱石は「ゆり分け」を行います。「ゆり板」や「ゆり鉢」等を用い、水中で比重選鉱を行います。

「ゆり板」は上下で深さが異なり、下の角には水を流すための口が作られています。※右写真「ゆり板」は一関市教育委員会所蔵、「ゆり鉢」は新地金山周辺住民所蔵。



地域の「気になること」をセンタースタッフが独自に調査!

ミッション
65

伝説調査
ファイルNo.7

金山一揆
(後編)

センターの
自由研究



1594年、東山地方の金の堀子たちの強訴から発展した「金山一揆」。一揆を鎮圧した豊臣政権の視点で語られることが多いですが、前号ではあえて一揆を起こした堀子側の視点で整理してみました。その中で湧いてきたのが「強訴を起こさなければいけないほど、産金は大変だったのか」という疑問。そこで今回は、続編として「金山一揆」ゆかりの地とともに、当地域における「産金方法」にスポットを当ててみます!(記載内容はあくまでも当センター独自調査の結果です)

※「磐井郡東山」という地域名称があり、現在の東磐井地域にあたる31か村に舞草村・相川村(現在の一関市舞川)、現在の平泉町や奥州市の一部が加わったエリアのこと。

産金の歴史

日本における金の採掘で、最も古い記録とされるのは、天平21年(749年)、現在の宮城県遠田郡涌谷町で。奈良・東大寺の大仏に使用されたとされています。

その後、陸奥の国では砂金採りが盛んに行われ、特に奥州藤原氏が「中尊寺金色堂(1124年上棟)」に象徴される平泉黄金文化を築きま

す。当地域(東山地方)には数多くの金山があったとされ、その始まりはよく分かっていませんが、古代(中世、江戸時代初頭まで)金の産出が行われていました。文禄3年(1594年)に堀子たちが金山年貢の重税に対する強訴(金山一揆)をしていることから、当地域では、江戸初期には産金の減少が推測されます。なお、有名な新潟県の佐渡金山は1601年に開山され、江戸幕府の直轄で金山経営が行われています。

明治に入ると、削岩機や火薬発破等の新技術を導入した会社経営による近代鉱山に転換。当地域でもかつての金山跡を中心に、改めて採掘が行われるようになり、その多くは戦後に閉山してしまいましたが、昭和60年頃まで稼働した鉱山もありました。

※1 同時期の歴史を謳っている金山も見受けられるが、学術的には涌谷町のみが文書での記録を確認できる。

古代〜江戸期の採取方法

古代(鎌倉時代)にかけては、砂金を含んだ川砂を水で洗い流して金粒を集める方法(川金)が基本でした。

採取量が減ってくると、川の岸辺や河岸段丘の土を洗い出すようになります(土金や柴金と呼ばれる)。

また、鉱脈は地表に露出し風雨にさらされると、酸化して黒褐色に変色するため、それらを目印に表土に近い鉱脈(露天・露頭)を掘る「露天掘り」に採掘の中心が推移。

次第に工芸品や貨幣など、金の需要が増し、表土からの産金に限界が来ると、鉱脈を探し、岩盤を掘り進めていくことになりました。このように鉱脈を直接掘り進めて行くことは「ひ押し掘り」と呼ばれ、技術の進歩とともに、坑道を開削しながらの「坑道掘り」も発展していきます。

砂金や柴金と違い、鉱石から金を採取するためには、掘り出した鉱石を砕き、砕いた鉱石を石臼ですりつぶし(粉成)、それを「セリ板」もしくは「ゆり板」と呼ばれる道具を用いて行う比重選鉱(「汰り分け」)が必要

です。つまり、産金には堀子以外にも各種役割分担があり、組織的に行われていたと考えられます。

※2 当時の採取方法ははっきりと分かってはいないため、あくまでも推測。これが全てではない。

Q. 金の鉱脈がありそうな山はどうやって探した??

産金においては「山師」と呼ばれる鉱脈を見つけて歩く存在の人がいたとされます。近現代では林業に関連した山林の買い付けを行う人を指すイメージがありますが、組織的な金山経営が行われるようになった時代には、山師が金山を取り締まっていたと考えられます。

山師は山伏に近い存在だったのではないかという説もあり、普段から山を歩き回り、山に詳しい人物であるはずですが、「金の鉱脈があるかもしれない」と思わせる「金山あるある」を知っていたのではないのでしょうか。

例えば通称「がくま」と呼ばれる植物(写真左:三枚山鉱山にて撮影)。正式には何の植物を指すのか定かではないようですが、「リョウメンシダ」などの「常緑のシダ植物」が金山周辺にはよく見られます。



▲奥玉・三枚山鉱山のシダ植物(左)と、矢ノ森金山の石英脈の写(山島篤雄氏撮影)。